

## ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

### 慣用句

『かげも形もない』

意味：後に“何も残っていない”こと。

ひとつこと：類義語として『顔が立つ』 対義語として『顔に泥をぬる』『顔をつぶす』がある。

使い方：ここは君の顔を立てて僕が引き下がろう。

『肩の荷が下りる』

意味：責任をはたして気が楽になること。

ひとつこと：“荷”は責任や気にかかっていることを言う。類義語として『重荷を下ろす』『肩が軽くなる』がある。

使い方：「おまえが就職してやっと肩の荷が下りた。」と父が言った。

### ことわざ

『飼い犬に手をかまれる』

意味：可愛がって世話をした人から裏切られること。

ひとつこと：類義語として『恩をあだで返す』『後足で砂をかける』 対義語として『犬は三日飼えば恩を忘れず』。

使い方：親切に世話をしてあげた後輩に悪口を言われ、“飼い犬に手をかまれた”思いだ。

『蛙つゐの面に水』

意味：どんなことをされても平気であること。

ひとつこと：蛙は顔に水をかけられても平気であることから。

使い方：彼はどんなに叱られても“蛙の面に水”で反省の様子がない。